

2024年度
南部版

HAKKEN TANKEN CHIBAKEN
発見たんけん千葉県

中学生用



名前

未来のわたし



【解説】

この冊子は、千葉県立の公立中学校で、10年後の自分を想像し、そのために必要なスキルや知識を身につけるための学習資料として作成されています。この冊子を通じて、中学生が自分の未来を思い描き、その実現に向けて努力するきっかけとなることを目指しています。

発行者：JLAA（一財）社団法人 日本地域教育者協会

【解説】

この冊子は、千葉県立の公立中学校で、10年後の自分を想像し、そのために必要なスキルや知識を身につけるための学習資料として作成されています。この冊子を通じて、中学生が自分の未来を思い描き、その実現に向けて努力するきっかけとなることを目指しています。

【発行】株式会社 地域新聞社 千葉県A株式会社印刷部（〒270-0292 千葉県市川市）

TEL: 0476-485-0000 FAX: 0476-485-0001 E-mail: chikaku@chikaku.co.jp

Web: www.chikaku.co.jp

年 組

名前



製造業
(荷役運搬機械)

荷物をつかんで物流を支える

とうぶじゅうこうぎょうかぶしきがいしゃ
東部重工業株式会社

設立:1965年 従業員数:75人

浦安市北栄4-12-20
TEL 047-352-5315 / FAX 047-352-5341
https://www.tobugrab.com/

- ☑ 交流授業
- ☑ 職場見学
- ☑ 個別質問



▲ホームページ



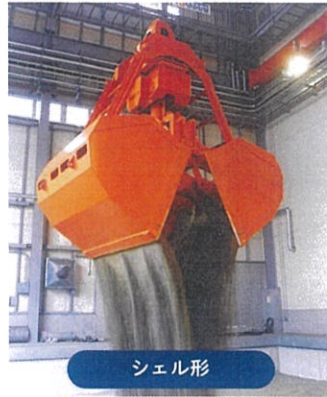
こんな仕事をしています。

「グラブバケット」と呼ばれる荷役運搬機械を中心に、その他の重い荷物の積み下ろしで活躍する機械全般の製造を行っています。また、お客様の要望に最適な機械の設計・製造も行います。必要な資材の調達をしたら、鉄板の切り出しや、溶接、穴あけ加工などをして組み立て、完成した後は運搬・納品・設置とメンテナンスまでを行っています。



グラブバケットってどんなもの？

グラブバケットは「つかむ」ための機械です。イメージとしては、とても大きなクレーンゲーム機を想像すると近いかもしれません。国内や海外、さまざまな場所から海路で運ばれてきた物を、船から陸に揚げるために使われます。主に海運会社や港湾作業の会社が必要とし、港で活躍しています。石炭や石灰石など、粉や粒状の未包装の物をつかむシェル形他、塊状の物をつかむオレンジピール形、木材など長い物を運ぶフォーク形などさまざまな型があります。



シェル形

他にも、
貨物を受け止める役割を果たす
ホッパーや、クレーンに取り付けて
コイル（鉄をぐるぐるに巻き取った物）を
吊り上げるコイルリフター
なども製造しています



ホッパー



コイルリフター



働く人にインタビュー

機械を使って、部品などを削る作業を担当しています。作業中は常に安全第一を心掛けています。小さい頃からものづくりに興味があり、高校も工業系の学校へ進学しました。自分が製造に携わった機械が、実際に現場で活躍している姿を見たときに、やりがいを感じます。

製造部 西村 修汰 さん



機械を製作するのに必要な、図面の作成や強度計算を担当しています。私が所属する設計部は、いろいろな部署との連携が求められます。そのため人に大事な内容を伝えるときは、メールで送るのではなく、会話でのコミュニケーションを意識しています。

設計部 石川 堅太 さん



例えば…
こんな人に
向いています

- 工作やプラモデル作りが好きな人
- 機械の構造に興味がある人
- 体を動かすことが好きな人



海と陸をつなぐ、物流の架け橋

私たちの住む島国・日本。物流には陸運や海運、空運といったさまざまな方法がありますが、世界の貿易を「量」で見ると、99%以上が海、つまり船によるもの。大型の輸送船なら車や鉄道、飛行機よりも一度にたくさんの物を運べて、その結果費用を抑えることができるからです。ですが、船は港から港へ物を運ぶことはできても、荷役運搬機械がなければ陸に揚げることはできません。海から陸へ、最後の5mをつなぎ物流を途絶えさせない存在として、グラブバケットなどは欠かせない存在です。



今よりもっと社会に貢献していくために

現在、東部重工業は国内に三つの工場を持っていますが、今後は海外に拠点をつくることを検討しています。その目的は、日本で製品を作って海外に輸出するよりも、現地で作った方がより輸送費や資材費などを安く抑えつつ、海外にも高品質な製品を提供できるからです。また、海外で使用されている製品にメンテナンスが必要になった際、より早く対応ができるという利点もあります。ただし海外に進出するには、今よりもたくさんの技術者が必要になります。そのために日々、人材育成にも力を入れています。

